



発行元
紀南キリスト教会
和歌山県田辺市
下屋敷町80
TEL/FAX:0739-25-1191
E-mail: kinan-ch@
beach.ocn.ne.jp
H・P: http://www.kinan-
ch.org/



今冬は暖冬と思っていました。やはり厳しい寒さがやってきました。でも、緋寒桜が咲いたと新聞で見ましたし梅の花も咲いています。梅花は「春告げ花」とも言うようですが、旧約聖書に出て来るアメンドウの花に類しているのでしょうか。手繰り寄せる思いで春を待ちましょう。

編集員一同

与えられた四日間



Sさんと私は、高校時代からの友だ。会えば、言いたいことを言い、笑い、慰め合う。

彼女は出産時、病院の過失で火傷を負い、生死をさま迷った。幸い、足に障害が残ったものの奇跡的に助かった。彼女は自身の天性

によるものとご両親の深い愛情で、その障害を受け入れられる強さと輝きを放っていた。ご両親には、私も随分可愛がっていただいた。

時は過ぎ、私たちも中年となった。彼女は会社に勤める一方、教会に通い受洗していた。幸せな彼女にも

唯一、恐怖に近い悩みがあった。それは『いつか両親と死別しなくてはならない』という事実だ。その話題になると彼女は涙ぐみ、私は途方に暮れた。

当時、ご両親はホームに入居されていたが、ずっとお元氣だった。私たちが六

末にやると、本当のものを思いだしたと、その時は思ったからだ。当時、私がキリストに出会い、信じる確率は宝くじに当たるようなものだ。その出会いは奇跡的といっても良かった。なぜなら、それまで生まれてこの方、教会や聖書とは全く縁がなく、知らなかった。そんな私がイエス・キリストを信じたことなど、考えも及ばないことだった。今から思えば、自分で探し、自分で選んだ、と思っていたことが、実はこのお言葉通り、イエスさま

その夜、お母様は安らかに旅立たれた。『神後日、彼女は言った。『神様から与えられた、あの四日間がなかったら、自分がどうなっていたか分からな

い。あの宝物のような日々は、神様からの贈り物だったと思う。心から主に感謝している。』

お葬式で拝見したお母様のお顔は、全身全霊でこの世の務めを果たした人の、満ち足りた美しい笑顔でした。

亡くなる前の四日間、お母様は意識もなく、今にも止まりそうな細かい呼吸を続けていた。彼女はお母様の手を握り、語りかけた。

「これまでありがとう。私はお母様の娘に生まれてきて幸せだった。お母様、大好きよ！すると、お母様の目尻から涙がこぼれ落ちた。四日目の朝、彼女はこれまで言えなかったことが、自然に言葉となって出てきた。

「一人になっても、ちゃんと生きて行くから安心してきた。

「主の祈り
天にまします我らの父よ、御名を崇めさせ給え。御心を天になる如く地にもなさせ給え。
我らの日用の糧を今日も与えたまえ。
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく我らの罪をも赦したまえ。
我らを試みにあわせず悪より救い出し給え。」

ホームページ

紀南教会のホームページは、二〇〇二年の第六二回キリストの教会全国大会を行う二年前位から始めたように思います。

姉妹がその大役を最初から引き受けて下さり、大会準備の忙しい中を更新を下さっていました。大会が終わった後も残務等の報告を載せて下さっていました。

ある日「仕事で忙しい彼女に何時までも任せてばかりでいいのよ」と思いました。でもあの仕事は私には無理。そのままになってたのですが、数年前の総会の時に話の流れから突然「ホームページを私が代わりに」と言ってしまうました。言った自分にビックリ

です。書いた物であれば消す事は出来るのですが、言ってしまったのだ。だからやらねばならぬ！です。兄弟に頼んで全部お膳立てをしてもらい後は更新するのみなのですが、全くの素人なので分かりません。説明してもらいメモをとったのですが、イザとなると断片的に思い出すだけで分からない。兄弟に電話を何度もかけて聞き、家にも何回来てもらった事でしょうか。

そして現在も凸凹しながら続いています。先週更新できたのに今週は出来ていない何故だ！という事が度々あります。

二年程前にパソコンが新しくなりました。途端に要領が得ず、失敗の連続で、特に「つれづれ」のページが更新出来なくなりました。手順は今までと同じようにしているのに更新できません。その理由がサッパリ分からない。何回挑戦したことがか。

今年こそ元旦の集合写真を載せよう、あの手この手で挑戦しても駄目。何回しても駄目。自分の無力さが許せなくて腹が立ってきました。数え切れないほど挑戦しました。こうなれば意地です。一月一六日、又々挑戦。これで何回目の挑戦かも分からない。夜も遅く疲れ果て挨拶文もそこに寝ました。

礼拝後、そのことをお世話になつて居る兄弟に話すと、笑いながら「そーか、そーか、変やナア」と聞いてくれました。一月一八日、どうせ駄目だろうと思いがらページを開いたら、ナント！更新が出来ているではありませんか。ビックリです。でも、何を・何処を・どうしたのか覚えていません。困っています。でも成せば成るのだと思えば嬉しい気持ちがあります。でも次はどうなる事やら。しかし！しぶとく挑戦すれば、分からないままにでも、その内に何とか成るのではしよう。

人不知

「神の選び」

「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあな

たを選んだ。」(ヨハネによる福音書一五：一六) イエスは「わたしがあなたを選んだ」といわれる。私たちが

イエスを選んだということではなくて、イエスが私たちを選んだ、と言うのである。ということは責任は選んだイエスにある。任命責任というヤツだ。イエスよ、私のような者を選ぶより、もっとましな者を選んだ方が良かったのではないですか、と言いたいくらいだ。しかし、それよりも何よりも、この言葉はどうも納得がいかない。私には自分が選ばれたと言うより、自分がイエスを選んで、信じたという方がピンと来る。私たちが様々な事を自分

で求め、自分で探し、自分で選び、自分で判断し、自分がイエス・キリストを信じた、あるいは信じなかった、と

思っている。果たしてそうだろうか。私たちは一人で生きていくのではない。多くの人の関わりの中で生きていく。神の導きによって、あるいはご縁ともいわれるが、自分の思いや判断を超えた不思議な出会いがある。

私も自分で求め、自分で選んで、イエスを信じたと思ってきた。なぜなら、あれこれと必死に求めてきた

の不思議な導き、憐れみ、選びだしたことを知るのである。一言断つておきたい。神の選びの基準は人間の選びとは違う。その選びの基準は無力な者、罪多き者、重荷を負う者である。その選びには目的があった。それは神をあがめ、たたえることである。

また、イエスは「わたしはブドウの木、あなたがたはその枝である。わたしに繋がっていないと、わたしに繋がっていなさい。そうすれば豊かに実を結ぶ。」と言われた。ここに選ばれた者がその目的を果たし、神の

期待に込める道がある。枝はブドウの木にしっかりと繋がることが出来る。しかし、キリストから離れては実を結ぶことが出来ないばかりか、やがて枯れてしまう。キリストに繋がって、その命を頂くことで初めてその目的を実現することが出来るのである。キリストに繋がるといことは、イエス・キリストを信じて、その愛の中に居続けることである。それによって無力で、罪多き、汚れに満ちたわたしたちも神の赦しときよさ

にあずかり、神を褒めたたえ、キリストが愛されたように互いに愛し合う恵み、力を頂くのである。これは万人に与えられるものである。

紀南教会
上山耕司



二〇〇四年二月創刊以来十三年目に入りました。紀南教会に繋がる兄弟姉妹の出会いの場、楽しい集いの場としての紀南教会瓦版に皆様の変わらぬお支えをお願いいたします。

次号四九号は五月二九日発行予定です。